



先輩職員の教えを素直に学び吸収する
姿勢があればきっと、どのような職場でも
自分を生かした働き方ができると思います。

化学職 生活衛生課

大熊 浩史 (おおぐま ひろふみ)

平成30年度入庁

現在担当されている仕事内容について、教えてください。

食品衛生関係の仕事をしています。倉敷市内の「食の安全」が守られるよう情報発信し、食中毒の発生を未然に防止するよう努めています。具体的には、開業するお店の図面相談や実地検査、市民から寄せられる「食の安全・安心」に関する相談対応、出前講座での講演などを行っています。食中毒が発生した場合は、被害拡大を防止するために迅速な調査、行政処分、店舗の消毒指導及び衛生教育を行います。



職場の雰囲気について教えてください。

獣医師や薬剤師、栄養士など様々な職種と一緒に仕事をしていますが、これらの職種は異動が少なく在課年数が長いため、アットホームな雰囲気でもとても仲がよく、職場仲間と海外旅行をするほどです。昼休みには、手作りのお菓子をいただいたり、ウォーキングを兼ねて有志で神社へ参拝に行ったりするなど、心身ともにリフレッシュできる環境があるのも特徴です。一方で、食中毒発生時の原因究明や食の安全に関する研究事業では、活発で白熱した議論が展開され、専門職集団ならではの一面もあるメリハリの効いた素敵な職場です。

食品関係部署に化学技術職員？

一般的に、化学技術職員は本庁の環境部門で大気や水質関係の仕事をしたり、検査部門で検査業務を行ったりします。食品関係の部署に配属されるのはイレギュラーのようで、私自身、知識や資格がないため最初は戸惑いました。しかしながら、先輩職員と一緒に業務経験を積む中で、段々と必要なスキルが身に付きました。化学技術職といっても、様々な部署へ配属される可能性があります。不安もあるかと思いますが、先輩職員の教えを素直に学び吸収する姿勢があればきっと、どのような職場でも自分を生かした働き方ができると思います。



倉敷市職員を目指す皆さんにメッセージをお願いします。

通常業務のほかにも選挙事務や国勢調査など、公務員の仕事は多岐にわたります。私が入庁した平成30年は7月に豪雨災害が発生し、業務の大半が災害対応でした。2年目は、被災地応援職員として長野市への派遣が命ぜられ、前年の経験を生かして避難所運営を行いました。3年目は、新型コロナウイルス感染症対応として、陽性患者の利用施設に関する調査や消毒指導をしています。「化学職」というイメージとのギャップはありますが、やりがいのある仕事ばかりです。皆さんもぜひ倉敷市で一緒に働きましょう。